

ただいまご紹介に預かりましたマダム路子でございます。多分ご遠慮いただいて私の年齢はお伝えいただかなかったんだと思いますが、こんなに早く新参者の…といっても東京御苑RCの歴史はまだ浅いのですが、いろいろなRCに属していることですので、「私が早々と卓話をさせていただくというのは時期尚早です」と黒岩会長に申し上げたのですが、「本日はどうしても」とうことでお話をさせていただくことになりました。

最初の話に戻りますが、私このクラブに入会してからいろんな方と名刺交換をさせていただきました。残念ながら私より年齢が上の方がいらっしやらない。嬉しいのか悲しいのかわかりませんが、このような上からモノを言わせていただくのもちょっと先に生まれたのだからということで、大変失礼なことを申し上げるかもしれませんが、どうぞお許しくださいませ。私は1940年7月7日、戦前の生まれでございます。今年から後期高齢者。そんなもので尊大なもの言いになるかもしれませんが年に免じてお許し下さいませ。

私が御苑ロータリーに入会させて頂いたのは、宮代会長エレクトのご縁でございます。そのご縁がどうかたちでつながったかと申しますと、昨年宮代会長から黒岩会長へご紹介いただきまして、その頃から何か結成するというお話を聞きまして、それがロータリークラブ。

私は全然ロータリーというの知らないわけではございません。実はこのような卓話を過去数回させていただいております。麴町RC・荏原RCや紀尾井町RC等で、過去に卓話をさせていただきました。ただロータリーを理解しようという気持ちにもならず、只お話だけをしてきました。

ところが黒岩会長と知り合ったことからロータリーをあらためて考えてみました。ロータリーか、実はその頃、50代の頃は老人クラブかと思ってしまった。昼間例会ですからねえ。昼間に講演に来れる人は、お金持ちの社長さんかそれとも元なにかだつたとか、はっきり言って疑問に思っておりました。で、ロータリーなのねえ、と。夜か、「夜のロータリーって何ったことがないなあ」と思っているうちに宮代会長に最初はゲストで連れられて参加させていただいていました。

私が宮代会さんにお目にかかったのは、「ジャパンアクターズテレビ」というインターネットTVを、ここから歩いて10分足らずの処にスタジオを会長が用意してくださって、ジャパンアクターズテレビをやるための段取りを全部つけてくださったのです。最初にやったのが、今から5年前、私の若き亭主「片岡五郎」です。彼は元はといえば演劇人で、俳優座15期出身で原田芳雄さんと同期なのですが、やっぱり演劇界も非常に難しい状況のなかで、舞台人をもっとインターネットを通じてやろうという中に会長が長年、30年可愛がっていた人がいた。そういうことでエンタを中心に始めたのです。そうすると宮代さんが「エンタか〜」と。これは面白いと。エンタというのは俳優さんとか舞台とか音楽だけではなく、経済とか投資というものにエンターテインメント的な魅力が必要なんじゃないかということからご賛同いただきまして、今から2年前から宮代さんも加わってエンタトークということで、その中で経済・政治や医療、この前お越しになった飛岡先生等が出演されています。今日は飛岡先生とインターネットテレビをやってこちらに伺ったのですが。そんなご縁から実は会長につながり、このようなかたちになりました。

私が今日ロータリーで30分の時間を頂いて、何を話そうか。自分の人生を語ってもしようがありません。何かお役に立つお話は何だろうかと、最初から頂いた資料を全部読み直しました。その中でやはりロータリーの一番の悩みは会員が増えないこと。増えないどころか減少傾向にある。日本だけではなく全世界的に。これは今の国情、どこの国もそうですが、どんどん人口が増えているかもしれませんが若い人が少ない。どんどん長生きになる。特に日本では最大の悩みは「老人国」になっている。老人化ではない老齢国なのだ。まだ60代が多いうちには老人化にはなるけれども、もう既には老齢国なのだ。各種資料を読んでおりましたら実にそのことをいろんな方が指摘されてい

ます。

ロータリーをこのままにしておいてはどんどんふけていってしまう、というよりもどんどん減っていってしまう。それでどうしたら増やせるかということと、時代が変わっているのだから、「4つのテスト」ということから始まってのミッションは失ってはいけないけれども時は動いているし、人の考え方も変わり、国情も変わります、そのなかで金貨極上のようにあれはいけない、これはいけないだけでは立ち行きません。1980年ころは女性を入れないロータリー。私が行きましたときにも女性会員は、まったくいませんでした。その頃ライオンズクラブは結構女性達が頑張っていたらっしゃいましたが、ロータリーには女性はおりませんでした。それが1988年くらいから女性を入れないとならないということは、皆さんもご存知のように女性の働き、今のビジネスでは女性を動かさなかったらご商売もうまくいかない時代になってきた。そして子供達。

このクラブを立ち上げるにあたって黒岩会長が掲げた創立趣旨がございます。「次の世代につなごうロータリーの意志」これでございますね。次世代につなごう、同じ世代だけで語り合ってもしょうがないだろうと私も感じます。地域への奉仕を通じてのロータリー精神の社会普及。これも当然でございます。清楚でダイナミック。この清楚でということにちょっとこだわりました。清楚でというのは大変です。清楚でダイナミックな運営を通じて人格を形成。これは水野さんもよくおっしゃっているところです。広く深くいろいろな案件があるけれどもあれもこれもやっても仕方ないだろうと。これは黒岩会長が言われているのです。だから吟味検討を重ね永続性のある活動をしたい旨、書かれています。こういうご意見は今トップの「次世代につなごうロータリーの意志」、これはいろいろな会でもおっしゃっている理念でございます。

私も75歳になり後期高齢者になり、「国際魅力学会」の会長という立場にありますが、来年は退こうと思っています。娘が51歳で、ニューヨークのマンハッタンに20年ほど滞在してしまっていて、これは「山野愛子の孫」にあたります。彼女の初孫なのです。私が離婚し、山野路子という名前もお返ししましたので、現在の山野美容専門学校校長は私の姪にあたります。山野愛子の名前を引き継ぎまして山野愛子ジューン。彼女ももともとロサンゼルスで育って、上智大学を出るまでは二代目になんかなりたくない、アメリカの生活がいい！と言っていたのを長男である私の義兄が説得しました。

私には4人の子供がおりますが、「お母さん、よく離婚してくれた」と言うのです。何故かというとなら、やはり山野を継いで山野の仕事をしなればいけないけれども、お母さんがとんでもないお母さんですから離婚したことによって我々は自由だと。そして長男も長女も若いときからアメリカへ留学しました。長男がロサンゼルス。長女がマンハッタンで、両方とも20年くらい。それじゃあ私が英語堪能かという、これが全然ダメ。いくら言っても覚えなし。英会話学校へ行ってもだめ。私の心の中にあるのは「鬼畜米英」です。敗戦したのは5歳のときですから。天皇陛下の玉音も聞きました。でも終戦までは幼くても「鬼畜米英」で育てられたのです。

けれども1960年代に山野愛子さんに連れられてハワイ～ロスに行ったのです。私はモデル兼アシスタントで行ったのですが、そのとき、日本企業である、「日産ブルーバード」や「ソニー」とかを見たときは「やったぜ！ベビー」と思いました。こんな小さな国からこんな大きな国に企業的進出ができるのだと思った時から私はどこかで敗戦国で育った思いと「負けない！」という思いが合体していましたが、そんなものは捨てて、良いものは良い。悪いものは悪いという考え方に変わりました。

さきほど丸尾長頭さんと言いましたけれども、ご存じの方もいらっしゃると思いますが、ヌード・日劇ミュージックホールの演出家ですが、日劇ミュージックホールを建てた人は「小林一三」でございます。彼は阪急電鉄の社長であると同時に「宝塚」を作った方です。阪急電鉄を大きくする為に「宝塚」を作った人です。最初はかばん持ちをやっていたのですが、文芸として宝塚に入った。いわゆる戦後の隆盛期には裸の女の人を見たいという男性が多かった。新宿や浅草にたくさんできました。

そこで「渥美清さん」や「ビートたけしさん」等いろいろな人が出ていますが、こんな退廃的であってはいけないということで、小林一三オーナーが現在の映画館のある有楽町の日劇の5Fにミュージックホールを作って、体だけが綺麗じゃなくて、上品でダンスの出来る人を集めた。そこで脚本を書いていたが「三島由紀夫さん」、「谷崎潤一郎先生」、「今東光さん」。そういった方々が脚本を書かれ、「淡谷のり子さん」が歌を歌い、「美輪明宏さん」が中性的な魅力で舞台に立っていた。そういうところで私は育ちました。

丸尾長顕が「魅力学をあなたはやりなさい」と言ったのは何故か？丸尾長顕という人はギタリストだった『楢山節考』の作者の深沢七郎さん、漫画家、女性の作家とかいろいろな方を出しました。「魅力学」というのは人の魅力を引き出すこと。宝塚や日劇ミュージックホールに入ってきた女の子で、キラキラしている要素は持っているけれどもスターにするには何が必要かということで指導したのが「魅力学」です。この「魅力学」のもとになったのは「マイ・フェア・レディ」と同じで、自分のところに来たお手伝いさんをマナーによって美しく育てた。これが成功し、その後日本に入ってきた理論をそのまま丸尾先生は「魅力学」とつけたんです。

私はその頃若かったので、は女優になりたいと思っていたのです。「女優などになるよりも君はこういう仕事をしなさい」と言われました。何故私にそういうことを言うのかなと思っていたのです。先生の家には小林一三さんの写真が飾ってあったのです。19歳の時に「私の将来はどうしたらいいんでしょうか」と先生に相談しに行ったんです。そしたらいろんなスターの方が行ったり来たりして先生と話す暇がない。小林一三先生の額縁が曲がっているのが気になって気になって仕方がない。椅子を持ってきて勝手に直しました。そこに演出家の先生が来たり、小使いさんが入って来たり・煙草入れのゴミを捨てたりするのを手伝っていた。

それを見て評価したのでしょうか。「あなたは女優になれるかもしれないけれども、所詮は砂漠の中の砂金だよ。みんなこぼれてしまって、残るのは限られている。あなたにそれは不可能とは言わないけれども可能性は低いね」と、はっきりと言われてしまいました。「では先生どうしたらいいのでしょうか」と言いましたら「そういう人を育てる人になりなさい。人の魅力を引き出す人になりなさい。あなたはリーダータイプだ」と。

これが私の転機になりました。美容学校に入ることは内面も大事だけれども外見を整えることを学びなさい。それには資格を持っていたほうがいいというので、なんと山野美容学校ではなく、日本美容専門学校に入りました。これがすばらしい女性の教育者。メイ牛山、アーデン山中みんな海外で勉強をしてきた。何を彼女達は求めていたか？女性の地位向上なのですね。「カミユイなんて言わせない」という事から出発している中に私は入ってしまって校長にもかわれました。

あるときミスコンで山野愛子さんにお会いした。審査委員長の隣が山野愛子さんでした。22歳ですよ。「あらどうして出ないの？」と言われました。「いやいやとんでもないです」。私はフジテレビが、面白いね 22歳でこんなことをやっている女の子というので全国の地域の小さなテレビ局の司会をやっておりました。そのときに最後のサンケイホールの収録の時、隣に山野愛子さんがいたのです。何時間もフジテレビが撮っていますから彼女から言わせると「あなた何やってるの？」先生もうそれは巨星ですよ、当時の山野愛子といえば膝が震えるくらいすごい人の隣。そこでご縁ができて気に入られて、山野愛子という人は美容界で一番子持ちで、男の子を6人産んでいるのです。女の子がいらないから女の子を可愛がる。そこで可愛がられてふとした間違い…であったかどうか…結婚いたしました。そこで山野路子という名前でも世にデビューしたのです。

こうなりますと世間はすごい。二代目山野愛子か、あるいはほんぐらの息子を落としたのか、相容れまして良きにつけ悪きにつけ私はジャーナリズムにガンガン出ました。ですから私はマスコミの世界で生まれて、マスコミの世界しか知らないで今日迄きたと言っているくらいです。そんな中で私の中で魅力学というコンテンツがある。人の魅力を引き出す。山野愛子先生は海外でも有名で

ございましたから私のいるところではないと思って離婚したのが35歳。そのときに帰ってきて欲しいという願望もあったのでしょうか。山野路子という名前を使わせないと。今思えば「小さいなあ」とも思いましたけれども、そんなものいいわ、髪斗をつけてくれてやる、くらいの意地で名前をなんとかつけようかなと思いますが、とりあえずマドモアゼルではないだろうというのでマダム路子。

そして慰謝料、土地、家、何ももらわずに私は子供4人を引き連れて家を出ました。そうすれば当然裏には男がいるだろうと。当たり前ですよ、いたって。またそれがちょっとした方でした。私は結婚をしなかったから、そのままマダム路子できましたけれども。これも75歳になったから言えるのです。これがまだ若いときに2番目だ3番目だとか言えませんが、75歳だから言えることは、私は自分の選択が良かったのか悪かったのかというのは子供の成長にかかってくると思います。そういうわけで子供は今国際魅力学会と違いますが、一般社団法人の魅力アカデミーの会長をやっています。それから息子はアメリカでCMの会社を経営していましたので、西海岸に住んでいます、東アメリカで電通・博報堂さんの下請けをして渡辺謙さん等を撮っています。3番目の子は2011年に亡くしました。

ここから私の人生はまた変わりました。4人の子供を引き取りましたけれども子供を1人失った時に、何もやる気がなくなりました。自分が生きているのもいやでした。余命4カ月という癌でした。そういうようなことを経て娘が言いました。「お母さんそんな青い顔をなんでしているの？」頭の癌だから自分の病気がひどいということをお母さんにはあまりわからないのです。「お母さん、マダム路子という人はそんな青い顔をしているんじゃないよ。お母さんは真っ赤な爪をして真っ赤なドレスを着てみんなを元気にする人でしょ」その時ハッと思いました。もうこの子とは縁がなくなるけれども、私がここで落ち込んではいけません。娘のために生きるならと立ち直って2012年、その前から片岡がジャパンアクターズテレビをやっている2013年に宮代さんお目にかかったわけです。これで私はいろいろなことを整理しようと断舍離してロータリーのために生きようかと思いました。(拍手)

私は大風呂敷を広げちゃうのです。先に広げちゃうからどうしても縮められなくなってしまうというバカな生き方をして来ましたけれども、私はこれからやるのはSMS(ショートメッセージサービス)を使わなければ大変じゃないかと。今日も彼に話したのですが、「あなたフェイスブックやってる？」と言ったのですが、今日ロータリーに参りますということをお母さんに載せさせていただいております。黒岩会長・水野パストガバナー、皆さんを既に私のフェイスブックでご紹介しております。でもチョロチョロです。言っているのか悪いのか。どこまでやっているのか判らないのです。

今回勉強して、全世界に拡散して行って良い活動、自分達だけのグループだけではなく「良い活動をしていますよ」と発信をしていかないと、それにつながってくる人は人口的に若い人はいませんから。この75歳の私がこのようなことをやるといったら何時死んじゃうか分からないのです。でも、いろいろな資料を読みながら、やろうと決めました。それには皆さんも一緒にSMSって何だろうか？と勉強しましょう。

危険もいっぱいあります。このまえ宮代会長がラインに入られました。私は「ラインはいらない」と言ったんですが、自分の意思ではなく知らないうちに何かに載せられちゃったりします。フェイスブックもそうです。だからネット社会というのは怖い部分もあるけれども良い部分も沢山あります。それが社会ではないでしょうか。一般的な社会と同じだと思います。選択する能力を識別していく情報の取り上げ方というのをこれから勉強していかねばならないと私は思っております。

このようなご縁が生まれて是非ジャパンアクターズのほうに皆さんも随時ゲストで出演していただいて、ご自分の仕事のアピールもよいし、その中で私の考える「奉仕」はロータリーにあります、私はこんな活動をしているというようなことをお伝えしたいと思うのです。

今日、着物を着た美人がとお思いでしょうが、とんでもございません！この人達はすばらしくSMSの使い方が上手な人達です。こちらの林さんは、元中小企業同友会の若き部長になられたので、

私達みんなで応援していたら、この人癌になってしまって「給食事業経営」を全部売って、今はいろんな人の応援をしている人です。

私はミセス日本グランプリの名誉顧問をしておりますが、ミセス日本グランプリになるには全員がボランティアをやっていなければならないというのが条件です。ただ顔がきれい、スタイルがいい、それは当たり前で、何をやってきたか・何をやり続けてきたということが条件です。ですから私はスヴェンソンのウィッグもエグゼクティブ・アドバイザーをしておりますが、これは研修から、私がかぶってからきれいでしょう、というだけではごさいません。こちらは癌の患者さんを中心に販売しております。ですから人生の哲学を癌になったからといって捨ててはいけないよ、というメッセージです。

今度是非こちらに卓話にお呼びしたいのですが、ラオスに学校を作りました。そしてスヴェンソンは息子さんが来年から社長になられます。社長の奥様はパーキンソン病です。奥様が言いました。「私はダイヤも車もいらないから生きている証拠として世のため人のために何かをやりたい」。何をやるかということで、縁があってラオスに行ってラオスに学校を建てた。私がこのように派手にしているのも講演家で派手にしていないとみんな居眠りちゃう。(笑)今日は地味なのですが。

実は明日、「芸能界PTAワケあり芸能人の親大集合SP」というフジテレビの特番に出ます。夜7時から9時なのですが、たとえ芸能界といえどもPTAと名がついているんだから普通のスーツ姿で来てくれと言っていたのです。そしたらいざ撮る時になって、「路子さん真っ赤なドレスを着てください」。「なんで？」と言ったら、「とんでもないお母さんがいる」とフリたいからだ。

宮迫さんと蛭原君が司会なのですが、「とんでもないお母さんがそこに座っている」と言うのです。私だけ真っ赤なドレスを着ています。ちょっとした紹介があるのですが、そのときはブルーの衣裳を着てくれと言うんです。「なんですか？」と言うと「ありのまま」、「人生ありのまま生きている」ということで、ブルーの衣裳でと。バカじゃないのと言いましたが、もっと派手にしてと。こうして自分とは違う人格を作られているのです。ですからメディアは怖いけれども、私はメディアをうまく見方につけてきました。何かにつけてそういうチャンスがあれば皆さんも出演してください。それが「ジャパンアクターズテレビ」です。宮代さんがバックアップしてくださることによってできていることです。別に胡麻を播っているわけではありませんが、今後はいい情報を良い形で発信していくという事に重点を置いた活動をさせていただきたいと思います。

大変勝手なことを、たまたま馬齢を重ねました 75 歳の私がお話させていただきました。どうもありがとうございました。失礼いたしました。